

## 学長（全学）ダイバーシティ・ステートメント

岩手大学は、厳しくも豊かな自然に囲まれ、前身も含めればおおよそ 150 年の長きにわたり、山河がさまざまな動植物をはぐくむように、学生・教職員の多様で非凡な活動の場となってきた。多様性の増進は、岩手大学が立ち返るべき原点に根ざすものであるとともに、今後の不透明な時代における予測困難な教育・研究・大学運営ニーズに、柔軟に対応し得る組織であり続けるために、長期的視野でおこなう未来への投資である。岩手大学は多様性を、組織構成員における単なる人口比の問題とみなすのではなく、その組織構成員の多様性が基盤となってより創造的で豊かな教育・研究が生み出されるよう、組織運営の問題としてとらえ、取り組んでいく。

多様性の尊重はまた、大学が地域に提供し得る重要な社会的価値である。大学という複眼的思考を重んじる組織が、その存在意義を認められるのは、何人も個性を伸ばされ、挑戦の機会を得られる社会においてこそである。岩手大学は、多様性の尊重という社会的価値の提供を通じて、自らの存在意義を明示し、誰ひとり取り残さない社会という理想の実現に向け、地域とともに歩んでいく。

- 大学におけるダイバーシティ環境の代表的評価指標について、岩手大学の指標値の現状と背景の分析、改善のアジェンダ策定を通じ、より豊かなダイバーシティ環境の実現をめざす。
- 「岩手大学男女共同参画推進宣言」（2009 年）以来推進してきた、女性研究者増加・教職員上位職における女性比率増加について、引き続き取り組み、かつ加速させ、クリティカル・マスである 30%への早期達成をめざす。
- 学内における LGBT 当事者・アライ※の活動をサポートし、SOGI に関する差別的言動・暴力・嫌がらせのないキャンパスの実現をめざす。
- ワークライフバランスに配慮する働き方改革や、障害への合理的配慮等の実施などを通じて、さまざまな特性や事情をもち、文化慣習や宗教を異にする学生・教職員が、ともに学び働きやすい環境を整備する体制のシームレスな確立をめざす。
- 学生・教職員の困りごとに対応するための人的リソースを確保する。共生サポーター養成のような学内確保と、ジョブコーチ\*\*\*の積極利用のような学外確保の、両方向を視野に入れて進め、SOGI、国籍・エスニシティ、年齢や障害の有無などにかかわらず生き生きと学び働ける環境の実現をめざす。

※社会的課題に対し、当事者ではないが自分事として関わり取り組む、支援者・共闘者

\*\*\*障害をもつ者の職場適応に課題がある場合に、職場に出向くなどして専門的支援をおこなう者。